

## 平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川西 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	89人	算数	89人	理科	89人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人
------	----	-----	----	-----	----	-----

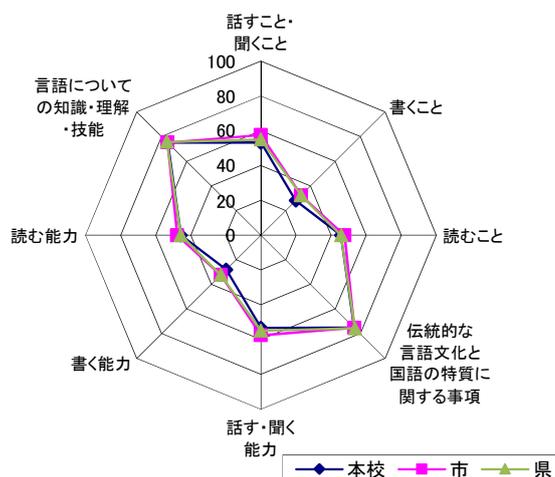
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	53.2	57.5	54.9
	書くこと	28.1	32.3	32.3
	読むこと	45.7	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.1	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	53.2	57.5	54.9
	書く能力	28.1	32.3	32.3
	読む能力	45.7	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	75.1	75.3	75.8



## ★指導の工夫と改善

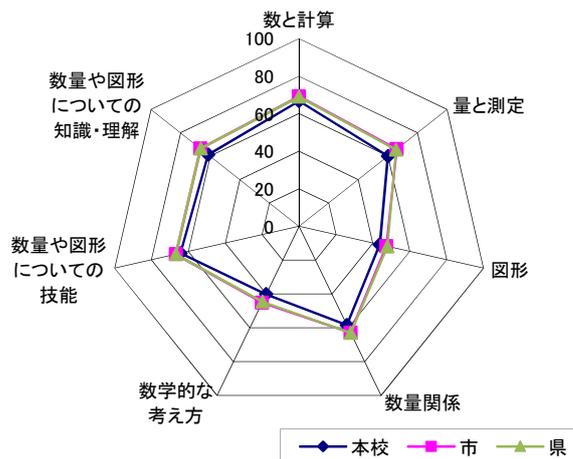
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●活用の記述式問題「話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる」では、市と比較して5.7%低く、課題が見られた。	○「話す・聞く」の単元だけでなく、学校生活全般において、話の中心に気を付けて聞くよう指導を重ねる。 ●一斉指導の中で、ペア学習やグループ学習を適切に取り入れながら、自分の意見を述べる機会を積極的に取り入れる。
書くこと	●活用の記述式問題「メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書く」では、県と比較して11.7%下回り、市と比較すると10.2%下回った。また、C層およびD層の無回答率が高く、課題である。	○国語の学習に限らず、社会科や総合的な学習の時間等も活用し、メモを基に報告レポートに記述する機会を設ける。また、その際、メモの取り方やレポートを書く上で落としはけない大切なことを繰り返し指導していく。
読むこと	○説明文および文学作品において、県や市と比較し、同程度の結果が得られた。 ●文学作品の設問「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える」では、正答率が19.1%、同じく「叙述や会話文を基に、登場人物の性格を捉える」の設問では、正答率が18.0%と低く、課題が見られた。	●文学作品の学習において、登場人物の物語における関係や性格を捉える活動を通して、さらに読みを深めさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みについて、3問中2問が正答率94%を上回った。また、残る1問も、正答率は83.1%だったものの、県との差が13.0%と上回り、市とも9.9%上回る高い結果が得られた。国語辞典の使い方について、県や市と比較し、5%以上高い結果が得られた。 ●主語・述語になる語句の類別に関する設問では、県や市の平均を下回った。	○学校での漢字の読み書きの指導に加え、家庭学習でも繰り返し練習させて、習熟を図る。 ●ミニテストや50問テストをできるまで粘り強く指導する。 ●主語・述語の類別について、プリント等を通して繰り返し指導し、定着を促す。

# 宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.8	69.2	69.1
	量と測定	60.1	66.1	65.6
	図形	43.8	47.4	48.0
	数量関係	58.4	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	40.1	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	64.3	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	61.4	66.6	66.5



## ★指導の工夫と改善

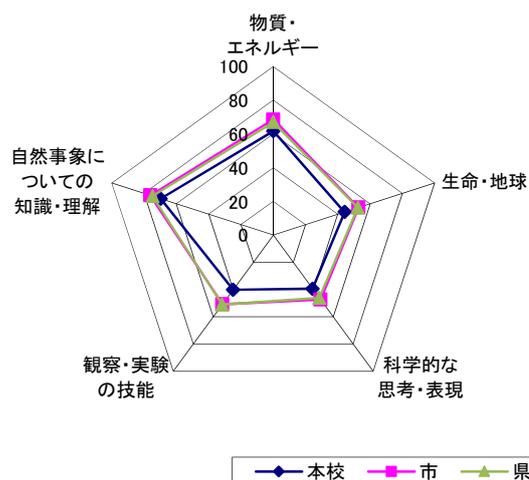
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○加減に関する問題の正答率は83.7%で、市や県の平均を上回った。</p> <p>●乗除の問題に課題が見られた。特にわり算では、等分除の問題について、除法の式を立式し答えを求める問題の正答率が低かった。</p>	<p>・問題点を把握し、朝の学習や家庭学習、ミニテストなどを活用して継続して学習を続け、基礎的内容の定着を図っていく。</p> <p>・問題に対して、図・数直線・言葉・式などを用いて自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れていく。</p>
量と測定	<p>○分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する問題の正答率は、市や県の平均とほぼ同じであった。</p> <p>●算数の教科書4年(上)1冊のおよその重さを選ぶ問題に課題が見られた。</p>	<p>・学習内容の理解を深めるため、生活と結びつけた問題や、類題に積極的に取り組ませていく。また、繰り返し問題に取り組むことで学習内容の定着を測りたい。</p>
図形	<p>○円を利用してかいた三角形の名前とその理由を答える問題の正答率は、市や県の平均を上回った。</p> <p>●箱に入った同じ大きさの6個のボールから半径を求める問題に課題が見られた。</p>	<p>・操作活動を取り入れることで、図形の仕組みやおもしろさに気づき、図形の知識や技能を高められるようにしたい。</p>
数量関係	<p>○棒グラフの目盛りの大きさを読み取る問題の正答率は、市や県の平均を上回った。</p> <p>●表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ問題に課題が見られた。</p>	<p>・文章問題を正しく理解できるように、言葉・数・式・図・表・グラフ・数直線などを用いて考えたり説明したりする学習を積極的に取り入れ、問題を解決する力を育てたい。</p>

# 宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.7	68.6	66.9
	生命・地球	44.2	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	39.4	47.4	46.2
	観察・実験の技能	40.2	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	69.7	76.1	74.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「複数枚の鏡で日光を反射させて水を温める方法が分かる」という問題の正解率は91.0%で、このことについては、ほとんどの児童が理解していることが分かる。また、「ものづくりで利用している磁石の性質が分かる」という問題の正答率は、64.0%で宇都宮市・栃木県の正答率をわずかながら上回った。</p> <p>●「ものと重さ」の問題で、ものの体積や形と重さとの関係性について課題が見られる。</p> <p>●「光の性質」の問題で、反射した光や虫眼鏡の集光した光の特徴についての理解に課題が見られた。</p> <p>●「電気のとおり道」の問題では、回路のつなぎ方に課題が見られる。</p>	<p>・今後も観察や実験を行う際、課題意識をしっかりと持たせ、観察や実験の視点を明確にして行う。</p> <p>・観察や実験の結果を図や文でまとめたり、考察を自分の言葉で表現したりする活動を積極的に取り入れ、思考力や表現力を育てていく。</p> <p>・知識・理解を深め、学習内容を定着させるため、家庭で学習できるようにする。</p>
生命・地球	<p>○昆虫と植物に関する問題の「昆虫の育ち方には一定の順序があることが分かる」の正答率は、市や県と同程度である。</p> <p>●方位磁針や温度計の操作方法など、用具の使い方に関しての正答率が、市や県と比較して低く、課題が見られる。</p> <p>●身近な自然の観察に関する問題で、植物の成長に関して課題が見られる。</p> <p>●記述式の問題では、無回答率が多くなっている。</p>	<p>・虫眼鏡や方位磁針、温度計などの道具の使い方について、体験を通して、使い方の定着を図っていく。</p> <p>・観察したことをノートや記録カードに、絵や文、図などを使って自分の言葉で表現する活動を今後も繰り返していく。</p> <p>・日常生活の中で昆虫や植物、太陽や地面の様子などに意図的に触れさせ、理解を深めるとともに、自然事象への興味関心を高めていきたい。</p>

## 宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きの時刻に寝ている」という質問に関する肯定回答率は、市や県の平均を上回っている。規則正しい生活ができていることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問の肯定回答割合が86.5%、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」という質問に対する肯定回答割合が88.8%で、県と市の平均より高い。このことから、学習のきっかけとして大切な興味関心が高いことが分かる。

○「家で、学校の宿題をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」という質問に関する肯定回答率は、市や県の平均を上回っており、家庭での学習習慣が身につけていることが分かる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定回答率は、市や県の平均より低い。どの教科においても、ペアやグループなどでの話し合いや情報交換を行う場を多く設定することで、自分の考えを発表することへの苦手意識を減らし、友達に意見を伝えたり、友達の考えを聞いたりすることが、自分の考えを深めることにつながることを実感させていきたい。

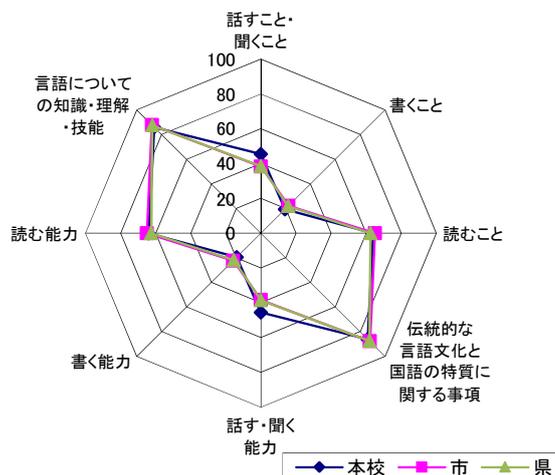
●「授業の最後に振り返る活動をしている」「授業で扱うノートには、学習の目標とめあてを書いている」という肯定回答率が、市や県の平均より低い。今後も、めあてから振り返りまでの流れを意識して授業を行い、児童が授業の1時間の中で学んでいる実感を得られるようにしていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対する肯定回答割合が、市や県の平均よりも下回っている。家庭学習の習慣はあるので、今後は、自主学習の内容を紹介したり、自主学習の継続を称賛したりすることで、自ら進んで考え学習に取り組めるようにしていきたい。

# 宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	45.5	38.3	38.5
	書くこと	19.4	22.3	21.9
	読むこと	64.0	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	86.1	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	45.5	38.3	38.5
	書く能力	19.4	22.3	21.9
	読む能力	64.0	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	86.1	87.8	87.5



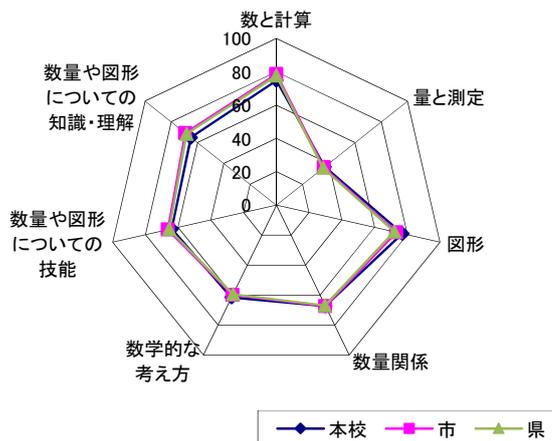
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市や県を7ポイント以上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・聞くことについては、授業だけでなく朝のスピーチや学習活動全般において、自分の考えと比べながら聞いたり、発表者の意図に気をつけながら聞いたりするように指導していきたい。 ・話すことについては、伝えたいことを整理し、聞き手に分かりやすい工夫を考えて実践できるように、他教科とも関連付けて指導していきたい。
書くこと	●他の領域に比べて平均正答率が低い。「メモや友達の意見をもとに、リーフレットのまとめを書く」設問では、無回答率が約30%と高い。	・無回答率が高かった設問もあったことから、児童の「書く」活動への苦手意識や難しさを感じていることが考えられる。国語の授業の中だけでなく、他の教科の学習や日記、行事作文など文章を書く機会を増やし、目的意識を持たせて様々な文章を書く活動を取り入れていく。
読むこと	○平均正答率は県や市とほぼ同じだった。「中心となる語や文に注目して小見出しをつける」「文章の要点や細かい点に注して読み、言葉を引用する」の設問では、正答率は県や市を上回っている。 ●「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」の設問では、無回答が約20%と高かった。	・物語文では、叙述に即して人物の心情や情景を正しく読み取れるように授業で丁寧に取り組んでいくとともに、それらをもとに自分の考えをまとめていく活動を取り入れるようにしていく。 ・説明文では、段落の関係や文章の構成に気を付けながら読ませたり要点をまとめたりする活動に丁寧に取り組んでいく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は他の領域に比べて高かった。 ●「慣用句の使い方や」の設問では5ポイント「漢字辞典の使い方」の設問では、3ポイント正答率が低かった。	・漢字は読めるが書くことが苦手である傾向が見られるので、日常的に漢字を正しく書くことを意識させるとともに、定期的に繰り返し練習させ、習熟を図っていきたい。 ・言語について、意図的に授業で取り上げ説明補足したり、他教科とも関連付けたりしながら理解できるように工夫していく。

# 宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.8	78.6	77.7
	量と測定	36.8	36.3	35.7
	図形	77.0	73.3	72.1
	数量関係	67.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	61.5	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	63.9	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	65.1	69.4	68.5



## ★指導の工夫と改善

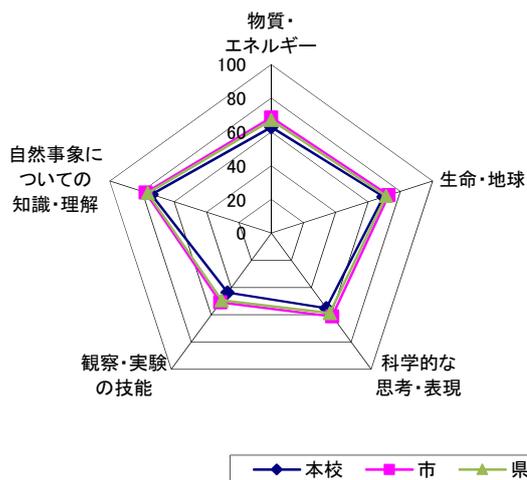
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●小数、分数の計算問題や数の活用の正答率が低かった。	・基礎基本の定着に向けて、計算ドリルの反復練習に取り組むようにする。 ・小数や分数について朝の学習の時間等を活用しながら継続して指導し、理解と定着を図るようにする。
量と測定	○平均正答率は県や市とほぼ同じだった。 ●「図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する」設問で、正答率が低かった。	・正答率の高い児童と低い児童の差が大きく開いているため、苦手を感じている児童や理解が定着していない児童も多くいると思われる。チーム・ティーチングや少人数指導を活用しながら苦手克服ができるよう指導していく。 ・面積を求める公式を再度確認し、公式を活用した反復練習を行うことで、理解と定着を図っていく。
図形	○平均正答率は県や市とほぼ同じだったが、平行四辺形を作図する設問の正答率は、市や県よりも高かった。	・今後も様々な練習問題を解き、多様な見方で問題を解くことができるようにしていく。
数量関係	○平均正答率は県や市とほぼ同じだった。 ●折れ線グラフの読み取りと比較、表の空欄補充の問題の正答率が低く、課題が見られた。	・グラフの縦軸、横軸が何を表しているのか、どんな特徴があるグラフなのか、またグラフのどこを確認すれば問いに答えられるのかを段階的に指導していく。

# 宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.8	68.6	67.0
	生命・地球	69.5	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	55.2	61.2	58.8
	観察・実験の技能	43.7	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	74.2	77.7	76.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は市の平均よりも下回った。</li> <li>●閉じ込めた空気と水の性質についての問題が市と県の平均よりも大きく下回っており、課題が見られた。</li> <li>●実験の結果から金属の棒の温まり方について説明する問題では、無回答だった児童が18.9%見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から日常の事象に目を向けさせ、関心をもてるように指導していきたい。また、学習内容と日常の事象との関連について意図的に触れ、科学的な興味・関心を育ていきたい。</li> <li>・課題意識を持って実験・観察に取り組めるように指導するとともに、実験や観察の結果から分かることを自分の言葉で表現できるように支援していくことで、学習内容の理解が深まるようにしていきたい。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の体のつくりと運動について問う問題の平均正答率は86.5%で他の内容と比較して高かった。</li> <li>●月と星に関する問題の平均正答率は53%で、市と県の平均正答率を下回っている。また、他の内容と比較しても平均正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察等の目的やねらいを明確にし、ねらいに立ち返って考察したり学習の振り返りをしっかり行ったりすることで、理解と定着を図っていきたい。</li> <li>・覚えるべき内容が身につくよう、繰り返し復習していきたい。</li> <li>・日頃の生活や自己の経験や見聞などから、理科的事象と関連付けて物事を考えられるよう意識させていきたい。</li> </ul>

## 宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「授業では、クラスの友達の間で話し合う活動をよく行っている」では、市や県の平均を5ポイント上回っている。引き続き授業の中で、ペアやグループなどでの話し合いや情報交換を行う場を多く設定することで、友達とのコミュニケーション力を上げたり、自分の考えを深めたりできるようにしていきたい。
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」では、市や県の平均を上回っている。授業の中で話し合いや学び合いの時間を計画的にとり、友達の考えを聞く態度を養っていきたい。
- 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」では、市や県の平均を6ポイント以上上回っている。授業の中でめあての確認とふり返りの時間をしっかりとることができているので、今後は、自主学習やほかの学習活動においても児童が自ら進んでふり返りができるようにしていきたい。
- 「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」では、81.1%で市や県を大きく上回っている。普段の生活の中で辞書を進んで使う習慣づけをこれからも進めていきたい。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」では、肯定群回答割合が54.1%で市や県の平均よりも下回っている。家庭学習については定着が図られてきているので、今後は自分で計画を立ててバランスよく取り組めるように助言していきたい。
- 「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」では、市や県の平均より約5ポイント下回っている。自主学習で毎日自主的に取り組む児童が増えてきているが、今後さらに高まるように工夫して取り組ませたり、担任による励ましや言葉かけをしたりしていきたい。
- 「将来の夢や目標をもっている」では、77%で市や県の平均より下回っている。今後は総合的な学習の時間やキャリア教育と関連させ、6年生や中学校進学へ向けて目標や夢を持たせることができるようにしていきたい。
- 「毎日同じ時間に寝ている」では、64.9%で市や県よりも下回っている。また、「家でのきまりや約束を守っている」でも、同様に下回っている。今後は家庭との連携を図り、保健や学活、家庭科などの教科とも関連を図りながら取り組んでいきたい。

## 宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学力を向上させる工夫	定期的に漢字や計算のミニテストを実施し、今まで学習した内容を繰り返し行ったり、宿題・学習プリント等をできるだけ早く採点し返却後、必ず間違い直しを行わせたりしている。	4・5年生ともに、言語についての知識・理解・技能や、数量や図形についての技能など、基本的な知識や技能に関わる問題の平均正答率は、他の領域に比べて高くなっている。また、漢字の読み方や言葉の意味がわからないときに辞書を使う習慣が身に付いている割合が高い。
書く力を身に付けさせるための工夫	授業の中で、自分の考えを書く場を設定し、自分の考えや思いを書くスキルを身に付けられるよう指導している。また、授業の終わりに、振り返りや感想を書く時間を設けている。	4・5年生ともに、他領域に比べて平均正答率が低く、無回答率が高かった。
家庭学習の定着を図る工夫	3～6年では、家庭学習ノートを用いた自主学習に学年に応じた目標時間取り組んで、提出するよう指導している。	4・5年生ともに、「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は98%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は、60%未満である。